

NEDO 懸賞金活用型プログラム／GENIAC-PRIZE
～国産基盤モデル等を活用した社会課題解決 A I エージェント開発～

1. 事業趣旨

1. 1. 背景及び目的

- 生成 A I は、生産性・付加価値の向上等を通じて、ビジネス機会を引き出すとともに様々な社会課題の解決に資することが期待されています。
- 国際的に生成 A I の開発競争が激化している中で、経済産業省と NEDO では 2024 年 2 月から「GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge)」プロジェクトを立ち上げ、基盤モデルの開発に必要な計算資源の提供支援、データの利活用推進、ナレッジシェアに向けたコミュニティの運営を行っています。
- 計算資源の提供支援事業においては、グローバルトップレベルに並ぶ非常に高い性能を持つ基盤モデルが開発されるといった成果がありました（※[各採択企業の性能評価結果詳細 \(METI/経済産業省\)](#)）。また 2024 年 10 月からは、計算資源の提供支援事業の第二期※がスタートしており、言語以外の画像・音声等の領域や、社会実装を見据えた領域特化の基盤モデルの開発に取り組んでいます。（※第三期は 2025 年 8 月からスタート予定）
- 一方で、日本国内では労働者不足、後継者不足による技術の喪失というような社会課題が労働人口の減少と共に顕在化しています。これらの課題解決に向けて、業務、技術承継・教育等の大幅な効率化・自動化に資する A I エージェントの開発・実装を促すことが重要です。
- 本事業では、上記の社会課題を解決するための国産基盤モデル等を活用した A I エージェントの開発・実装を促進することを目的とします。

1. 2. 事業概要

- 本事業では、労働人口減による影響が特に顕著であり、生成 A I による経済インパクトが大きく期待できる以下のテーマに資する「A I エージェント(特定のタスクを自律的に判断し実行する A I システム)」の研究開発と実証成果を広く募集します。
 - I 製造業の暗黙知の形式知化
 - II カスタマーサポートの生産性向上
- 本事業では、ユーザー（A I 利用者）が必要に応じて開発者（A I 開発者や A I 提供者※個人を含む）と組んで応募することとします。具体的には、以下の形態のいずれでも応募することが可能です。
 - ユーザーと開発者がペアを組んで A I エージェントを開発・実証する
 - ユーザーが内製で A I エージェントを開発・実証する
- 国産基盤モデルを活用しない A I エージェントの応募も可能です。ただし、いずれかの国産基盤モデル（リストに掲載）を活用した A I エージェントの開発・実証は必須とします。

- 国産基盤モデルとは、日本国内で登記され、かつ、日本国内に開発拠点を有する企業・大学等が開発したモデルを指し、具体的にはフルスクラッチモデル、既存の基盤モデル（国産基盤モデルに限らない）を追加学習したモデル、国産基盤モデルをファインチューニングしたモデルとし、本事業で利用可能な国産基盤モデルを特設サイト内に掲載される「国産基盤モデルリスト」に掲載します。特設サイト URL は NEDO の公募ページを参照ください。
- 国産基盤モデルリストには、GENIAC で開発した国産基盤モデル以外を含め、事務局が認める国産基盤モデルリストを、その開発事業者の了承の下でリストに登録します。リスト登録希望者も募集を行い、事務局の評価の上、順次リストに登録します。
- リストへの登録希望者は、特設サイト内に掲載される基盤モデル申請フォームから提出してください。

1. 3. テーマ設定

- 本事業において公募するテーマは、以下の2点です。

テーマⅠ：製造業の暗黙知の形式知化

テーマⅡ：カスタマーサポートの生産性向上

➤ テーマⅠ：製造業の暗黙知の形式知化

☆ 国内製造業では、深刻な人手不足とともに熟練工の技術継承課題も顕在化しています（約62%が指導する人材不足に課題認識を抱えている（2024年版ものづくり白書））。日本の製造業は高い技術力を所持しており、熟練工が長年の経験から得た「暗黙知」が、現場の高い品質や生産性を支える重要な役割を果たしていますが、この暗黙知は言語化されてないことが多く、将来失われる可能性があります。

☆ この暗黙知において、生成AIを利活用することで「形式知」への変換が促進され、さらに形式知と生成AIを組み合わせることで、製造業の課題である技術伝承や生産性向上等が期待されます。

➤ テーマⅡ：カスタマーサポートの生産性向上

☆ カスタマーサポートでは、高い離職率や採用難といった要因により深刻な人材不足が生じており、カスタマーサポートの生産性向上が急務となっています。

☆ このような状況下で、生成AIの活用に対する意識は高まっており、実際に導入企業も増加しています。一方で、生成AIにはハルシネーションや安全性に関する懸念があり、顧客対応品質も重要であるカスタマーサポートにおいては、主にオペレータと顧客との対話の要約等に留まっています。

☆ しかし、ユーザーのデータ活用による生成AIの精度向上や、生成AI導入を見据えた業務の見直し等によって、生成AIの活用余地は広がります。このよ

うに効果的な生成A I の活用により、カスタマーサポートの生産性向上と顧客対応品質の向上が期待されます。

2. 応募内容及び審査内容

2. 1. 応募資格

- 応募者は原則ユーザーとします。ユーザーは、日本国内の法人（企業、大学、国研等）及び団体（官公庁、地方公共団体等）とします。
 - ユーザーが必要に応じて開発者とペアを組んで応募することも可能です。開発者は、日本国内の法人（企業、大学、国研等）、団体（官公庁、地方公共団体等）及び個人とします。
- 取組内容や体制が異なれば、1つの法人による応募件数の上限はありません。
- 実証に参加するユーザー数に制限はありません。

2. 2. 応募内容

- 本事業において応募者に応募いただく内容は、以下とします。
 - 取組概要（応募フォーム）
 - A I エージェントの開発・実証成果（提案書及びデモ動画）
- 取組概要について
 - 応募者は、取組概要（取組予定の内容、選択テーマ（ⅠまたはⅡ）、利用する基盤モデル、体制（ユーザー、開発者））について、特設サイトに掲載される応募フォームから提出してください。
 - 応募期間は、9月末までとしますが状況に応じて延長する場合があります。
 - 事務局より応募が有効と認められた応募者のみ、その後の事前審査への応募が可能となりますのでご注意ください。
 - 応募後、事務局より開発状況のヒアリングをさせていただきます。
 - 提供データ
 - ☆ GENIAC で構築している一部のデータ提供も準備中です。各データの利用条件等は、事務局にお問い合わせください。
 - 応募に向けて、ユーザーまたは開発者とのマッチングの希望者も募集します。マッチング希望者は、マッチング希望の旨について、特設サイトに掲載されるマッチングフォームから提出してください。
 - ☆ 事務局より、希望条件に合ったユーザーまたは開発者を紹介いたしますが、マッチングを保証するものではありませんのでご了承ください
- A I エージェントの開発・実証について
 - 応募者は、12月下旬までにA I エージェントの開発・実証を行い、その成果を提案書・デモ動画にまとめ提出してください。

※審査において必要とされる情報について、事務局より個別に確認させていただく場合があります。

【提案書】

- 以下①～④の内容を、提案書にまとめ提出してください。提案書のフォーマットは、別途共有します（10月頃予定）。

① 背景・テーマに関するユースケース・実現に向けた課題

- ◇ テーマⅠまたはテーマⅡの指定
- ◇ ユースケースの設定および設定の背景
- ◇ ユースケース実現に向けた課題の設定

※テーマに即していれば、課題の設定は自由とします。

② ユーザーにおける変革内容

- ◇ ユースケース実現に向けての業務の見直し
- ◇ 関係部門の整理および推進体制の構築
- ◇ 業務を見直した上でのA I エージェントの要件定義の整理

※A I エージェントは、生成A I 以外のツール、ソリューションを組み合わせることも可能です。

③ 要件定義に基づいたA I エージェントの開発

- ◇ 国産基盤モデルを用いたA I エージェントの開発
- ◇ 海外基盤モデルを用いたA I エージェントの開発（任意）

④ ユースケースの実証結果

- ◇ 国産基盤モデルを用いたA I エージェントの実証
 - ◇ 海外基盤モデルを用いたA I エージェントの実証（任意）
 - ◇ 各実証結果を踏まえた、審査に用いるA I エージェントのプロトタイプの選定
- ※国産基盤モデルを活用したA I エージェントを応募する場合：採用したモデルの採用理由を提案書に記載してください。

※国産基盤モデルを活用しないA I エージェントを応募する場合：比較検討した国産基盤モデルの不採用理由を提案書に記載してください。

※応募上位者に対しては、実証方法及び実証結果について審査員、もしくは事務局より個別に確認させていただく場合があります。

【デモ動画】

- デモ動画はプロトタイプの機能・使い方がわかるように、実証の様子をまとめた動画を作成し提出してください。
- デモ動画は原則5分以内とします。

2. 3. 審査内容

2. 3. 1. 審査方式

● 応募確認

- 応募確認では、取組概要について事務局にて確認します。
- 本懸賞広告との合致性が認められない場合は、応募は無効となります。ただし、応募期間中に応募内容を修正の上、再応募することは可能です。
- 応募の有効/無効の結果については、原則5営業日以内に事務局より通知します。
※応募確認での順位決めは行わず、事前審査・最終審査で順位を決定します。

● 事前審査

- 事前審査では、提案書及びデモ動画にて応募上位者を選定します。
- 応募上位者が、最終審査に進出します。

● 最終審査

- 最終審査では、プレゼンテーション（ピッチ）方式による審査を行い、最終順位を決定します。
- プレゼンテーション方式の審査は、一般公開の場で行います。詳細については、別途公表します。

2. 3. 2. 審査基準

● 応募確認

確認項目	確認内容
懸賞広告との合致性	・取組概要は、懸賞金のテーマに合った取組か ・国内で開発された基盤モデルの開発・実証予定があるか ・ユーザー、開発者が明確か（内製含む）

● 事前審査・最終審査

審査項目	審査内容
ユースケースの波及効果	・ユーザーの現状の業務やシステムを分析し、具体的且つ実現可能なユースケースが設定できているか。 ・またユースケース実現のための課題設定が正しいか。 ・コスト対効果を考慮し、生産性向上等大きなインパクトを与えるか。他企業に参考になり、業界全体に対してインパクトを持つか。
ユーザーの变革	・ユーザーの業務プロセス改革が、効果的に実施できているか。事業部門・情報システム等関係部門の連携が有機的に行われているか。

	・開発者とユーザーのコミュニケーションを工夫する等、A I エージェント要件定義に手戻りが発生しないように取り組んでいるか。 ・A I エージェント開発・実証にあたって、ユーザー側が自律的に検討し、関与できているか（開発者に丸投げになっていないか） ・A I 開発に関する知識・ノウハウがユーザー内に蓄積され、継続的な改善が可能な体制が構築されているか。
A I エージェントプロトタイプの優位性	・技術的革新性があり、既存のサービスや競合他社に類似するものがないか。 ・プロトタイプの性能（回答精度、速度、安定度、ユーザビリティ）が優れているか。 ・ユーザーからのフィードバックを反映する技術的な仕組みが整っているか。 ・単一のモデルの評価にとどまらず、外部ツールや複数モデルを組み合わせたA I エージェントの多段階評価がおこなわれているか。
実証成果	・実証の実施方法が明確であるか。実証結果は再現性もあり、信頼できるものか。 ・ユーザーからフィードバック評価が得られているか。ユースケースは実現できたか、残された課題と改善点が整理できているか。
国産基盤モデル開発への貢献	・国産基盤モデルの利活用の推進にとって有益なフィードバックがあるか。 ※本項目は、事務局から国内基盤モデル開発事業者にフィードバックします。その際、情報提示元の応募者名は、応募者の希望があれば匿名とします。
公共性	・他の事業者にとって有用な技術・ノウハウを広く提供しているか。オープンソース化等の予定があるか。
市場開拓	・A I エージェントについて、市場展開していく事業計画があるか、さらに海外展開も視野に入れているか。
顧客視点 ※テーマⅡのみ	・カスタマーサポートを受ける顧客にも恩恵があるか。 ・顧客体験に差別化要素がある等、ユーザーのビジネスに付加価値を与える取組か。

2. 3. 3. 審査員

【審査員一覧】

担当 テーマ	審査員名 (敬称略)	所属情報等
Ⅰ 製造業の 暗黙知の 形式知化	井崎 武士	エヌビディア合同会社 エンタープライス事業本部 事業本部長
	北野 宏明	ソニーグループ株式会社 チーフテクノロジーフェロー
	杉山 俊幸	日経 BP 総合研究所 チーフコンサルタント 主席 研究員
	馬場 雪乃	東京大学 大学院総合文化研究科 准教授
	湯浅 エムレ 秀和	グロービス・キャピタル・パートナーズ株式会社 パ ートナー
Ⅱ カスタマー サポートの 生産性向上	岡田 隆太郎	一般社団法人日本ディープラーニング協会 専務理 事
	白井 恵里	株式会社メンバーズ 執行役員・ メンバーズデータアドベンチャーカンパニー 社長・ 一般社団法人 Generative AI Japan 理事
	松尾 豊	東京大学大学院工学系研究科 人工物工学研究セン ター／技術経営戦略学専攻 教授・ A I 戦略会議 座長
	村上 真奈	エヌビディア合同会社 ソリューションアーキテク トマネージャー
	矢島 竜児	株式会社リックテレコム 取締役 月刊コールセンタージャパン 編集長
	山下 辰巳	HDI-Japan 代表取締役 CEO

◇ なお、今後、審査員を変更・追加する可能性があります。

3. 懸賞金等

● 総合点が1位～3位の応募者：懸賞金

➤ 懸賞金額

- ◇ 1位：5,000万円（各テーマ1者）
- ◇ 2位：4,000万円（各テーマ1者）
- ◇ 3位：3,000万円（各テーマ1者）
- ◇ 審査員特別賞※：数千万程度（各テーマ 複数者）
- ※特定の項目等に秀でた応募者に授与予定（詳細は別途公表）

● 総合点1～3位、特別賞受賞者：表彰式への招待、 GENIAC のイベントでの PR 支援

- 全ての応募者※1：
 - 応募概要（提案書の一部）の特設サイト等での公表※2
 - 成果普及イベントへのご招待
 - ◇ ※1）著しく提案内容が目的に合致しない場合は、公表/招待しないこともあり得ます。
 - ◇ ※2）原則、応募概要を特設サイト等において公表します。なお、応募者の申し出により公表範囲を限定出来ることとし、限定する範囲及びその理由についても併せて提案書に記載してください。

4. スケジュール

- 懸賞広告：2025 年 5 月 9 日
- 応募説明会：2025 年 5 月 26 日
 - 応募説明会の詳細は別添を参照してください。
- 応募期間：2025 年 6 月～9 月末まで
- 審査〆切：2025 年 12 月下旬
- 事前審査結果（応募上位者）発表：2026 年 2 月下旬
- 表彰式（兼最終審査、結果発表）：2026 年 3 月下旬
- 応募概要等の公開、成果普及イベント：2026 年 3 月下旬以降

別紙1 用語集

ユーザー	A I 事業者ガイドラインで規定している、A I 利用者（日本国内の法人（企業、大学、国研等）及び団体（官公庁、地方公共団体等））。原則、本事業の応募者とする。 参考： A I 事業者ガイドライン（METI/経済産業省）
開発者	A I 事業者ガイドラインで規定している、A I 開発者及びA I 提供者（日本国内の法人（企業、大学、国研等）、団体（官公庁、地方公共団体等））及び個人。 参考： A I 事業者ガイドライン（METI/経済産業省）
応募上位者	提案書、デモ動画提出の上、上位に入賞した応募者。最終審査でプレゼンテーション（ピッチ）方式による審査対象者。
基盤モデル申請フォーム	本事業で利用できる国産基盤モデルリストへ追加申請するためのWeb フォーム。
応募フォーム	本事業に参加する上で取組概要を記載するためのWeb フォーム。
マッチングフォーム	本事業への参加を目的に、ユーザーもしくは開発者とのマッチングを希望する旨を記載するためのWeb フォーム。
提案書	審査に必要な応募者の提出物。 提案書のフォーマットは、応募者に別途共有（10 月頃予定）。
デモ動画	審査に必要な応募者の提出物。 プロトタイプの機能・使い方がわかるように実証の様子を録画したもの。原則 5 分以内とする。
A I エージェント	特定のタスクを自律的に判断し実行する A I システム。
国産基盤モデル	日本国内で登記され、かつ、日本国内に開発拠点を有する企業・大学等が開発したモデルを指す。 具体的にはフルスクラッチモデル、既存の基盤モデル（国産基盤モデルに限らない）を追加学習したモデル、国産基盤モデルをファインチューニングしたモデル。
暗黙知	個人が蓄積してきた経験やノウハウ等言語化して伝承することが困難な知識。
形式知	言語や数式、図表等で表現できる知識。